



特集 学童期の放課後

大人のみなさん、みなさんはどんな放課後を過ごしていましたか? いろんなことが心に残っていますか? 今の子どもたちが大人になった時、「忘れられないステキな思い出」として何を思い浮かべるでしょうか? いつの時代も、子どもたちにステキな「コードモジカン」を。

ええやんセブン

Vol.12

誰かのために 何かのために 活動している人を紹介します。

さとう みつえ 佐藤光恵さん

1961年生まれ。山口県下松市出身、山口市在住。幼稚園、保育園勤務を経て結婚を機に山口へ。「子育て支援交流広場ちや☆ちや☆ちや」の代表であると同時に「やまぐち子育てねっとめぶき」の代表でもある。子育て支援コーディネーター、保育心理士、FNS-J認定ファシリテータートレーナー他。

*めぶき...山口市内で子育て支援を行っている地域子育て支援拠点、10拠点で構成するネットワーク

ちや☆ちや☆ちや

山口市湯田温泉5-2-13
山口市児童文化センター2階
TEL 083-922-4325

開館日 火～土曜日 10:00～16:00
第4日曜日 10:00～15:00
11:30～12:30はお弁当タイム
ただし第4木曜日と祝日は休館

ブログ 『子育て支援交流広場ちや☆ちや☆ちや』
http://blog.canpan.info/chachacha/



自然の中で本気であそぶと 大人も子どもも 新たな自分に出会えます

いずれの場面においても子どもたちの表情は生き生きとしています。興味を持って時こそ「生きる力」を身につけるチャンスなのです。それは自分の気持ちのタンクに「楽しい」「学びたい」という意欲が満ちていく時でもありますね。大人がいかに良い環境をつくっていますか、子どもたち自身が体験したい、学びたいと思わなければ本人の糧にはなりません。

乳幼児期から学童期まで幅広く子育て支援に力を入れている佐藤光恵さん。保育者の視点から親子関係を見守り、常に親子の気持ちに寄り添うことを大切にされているそうです。めまぐるしく変化する情報社会の中で、子どもたちが豊かな子ども時代を過ごして社会へ羽ばたいていくために今、大人がどのような思いで、どのような環境づくりをすれば良いか、お話を聞いてきました。

子育て支援をはじめたきっかけ
友だちや知り合いがいらない環境で、育児中に感じた孤独感がとても大きかったです。そのような状況の中で、地域の方から我が子に「かわいね」と声をかけていただいたことが、とてもうれしくて心が救われる思いがしました。何気ない一言で、人の気持ちは元気になる実感しました。育児をしている人が、孤独感や疎外感を感じないように、という思いから、私も地域の中で支援する立場になりたいと思いました。

体験から得るもの
子どもは生まれながらにして生きる能力が備わっています。その能力や個性を伸ばしていくためには、自然環境の中で体験が重要です。見守ってくれる大人がいると、自然の中で心も身体も解放的になり、初めてのことでも挑戦してみようとする気持ちが芽生えてくるでしょう。また、初対面でも子ども同士で自発的に教え合う様子や、自然に潜む危険について大人から真剣に学ぼうとする姿も見受けられます。



「ああすれば良かった」「こうすればうまく育ったかも」という後悔は必要ありませんよ。

読者の方へメッセージ
人は成長する過程でさまざまな悩みや直面するでしょう。その時に子ども時代に体験したこと、体験から学んだことの土台があると、乗り越えることができると思います。また、親だから何でも知っているとは限りません。知らないこと、わからないこともたくさんあるはずですよ。子どもたちと一緒に体験してみてください。新たな世界や新しい自分を見ることができると思います。

環境づくりで大切にしたいこと
地域の特性に合わせて、さまざまな自然環境をステージにした体験の場を設定し、地域の方々が大いに関わることが大切だと思います。しめ縄づくりや野草、山菜採り、昔あそびなどは地域で育った方々から子どもたちに伝え残していけたら良いですね。地域の温かい関係の中で成長した子どもたちは、人を信頼する力が強まり、自己肯定感が育まれます。そのことがまさに「生きる力」につながると思います。

さつま芋の豆乳煮きなこがけ



【材料】さつま芋 1本 / 豆乳 適量 / きなこ・はちみつ 適量

【作り方】

- ①さつま芋を皮ごと輪切りにする
- ②鍋に①と芋がかぶる位の豆乳を入れて煮る
- ③芋が煮えたら器に盛り付けて、きなこやハチミツをかけていただく



簡単でもおいしい〜♪

芋まんじゅう



【材料】さつま芋 小1本(100g程度) / 地粉または小麦粉 大さじ3 / 水 大さじ2 / 塩少々

【作り方】

- ①さつま芋は皮ごと小さくサイコロ状に切る
- ②地粉(または小麦粉)と塩少々を水で溶いて、①のさつま芋にからめる
- ③蒸し器に食べやすい大きさに小分けし10分ほど蒸したら、できあがり



耐熱容器に入れて、電子レンジにかけると手軽にできそう!

円卓会議「さぼカフェ〜育児を考える〜」



そんな思いから12の市民活動団体による18プログラムのワークショップ「夏休み街中コードモジカンプロジェクト」はスタートしました。さまざまな市民活動団体と交流をはかることで、子どもたち自身も夢中になれるものが見つかるかもしれません。また、子どもたちと地域の大人の新たな絆づくりとなるかもしれません。居場所と体験の機会があることが、子どもたちの自発的な遊びにつながるのではないのでしょうか。

「学校から帰ったらテレビ三昧」「公園にわざわざゲーム機を持っていくのが理解できない」「放課後をどう過ごすか」「塾や習い事に行かせるか」という声も聞かれます。そこで、さぼらんででは、子どもを取り巻く環境に「市民活動」がどんな子育て支援ができるかをテーマに、市民交流会や円卓会議を開催してきました。その中から見えてきたのが「子どもを自由に遊ばせることへの親の不安」「大人たちの関係の希薄化」などの課題でした。それらを解決するためには、気軽に子どもたちが集える居場所が必要ということになりました。そこには、地域の大人たちの支えも必要です。

「学校から帰ったらテレビ三昧」「公園にわざわざゲーム機を持っていくのが理解できない」「放課後をどう過ごすか」「塾や習い事に行かせるか」という声も聞かれます。そこで、さぼらんででは、子どもを取り巻く環境に「市民活動」がどんな子育て支援ができるかをテーマに、市民交流会や円卓会議を開催してきました。その中から見えてきたのが「子どもを自由に遊ばせることへの親の不安」「大人たちの関係の希薄化」などの課題でした。それらを解決するためには、気軽に子どもたちが集える居場所が必要ということになりました。そこには、地域の大人たちの支えも必要です。



さぼ発! 子育て応援団

さぼらんでと市民活動団体は地域の「子育て」活動を応援します

夏休み街中コードモジカンプロジェクト「街角探検」物語をつくろう!

クイズに答えて 支え人 たこぶんぐ をもらおう

- 以下を明記のうえ、ご応募ください。
- 1. お名前・ご住所・年齢・職業・電話番号
- 2. クイズの答え
- 3. ええやん新聞を手に入れた場所
- 4. 取り上げて欲しいテーマ、市民活動団体
- 5. ええやん新聞12号へのご意見、ご感想
- 6. コンパスの希望色



NPO法人あっと×関モリイケ 楽しい子育て応援文具 消しゴム・のり・コンパスのセット (コンパスは ピンク、水色、黄緑、黄色から選べます) 締切 2015年 12月25日 5名様

職員と ボランティア



宛先はこちら 山口市道場門前 1-2-19 さぼらんで TEL 083-901-1166 FAX 083-901-1165 メール saporant@c-able.ne.jp

市民広報記者編集後記

NPO や市民活動に関心のある市民が記者となり、誰かのために何かのために活動している人たち取材しました。



海原 初めての市民記者。始める前は不安だらけ。でも、勇気を持って一歩踏み出すと、新しい世界が広がるのです。人生、何歳になっても勉強です。私、市民記者となり、改めて伝えることの難しさを学びました。素直な人々の声に感動し、涙も流れます。酒井 子育てと共に取り組んできた市民活動記者。取材で感じた言葉が自分や家族と重なり、それは私に深く刻み込まれました。大切な事をたくさん覚えていただいた貴重な経験でした。ありがとうございます。



当番のみなさんが笑顔で子どもたちを見守ります(左端が兼坂さん)



理事長の中村浩美さん

NPO法人あい・ねっと佐山
山口市佐山2735
TEL 083-989-3320

地域が実践する学童クラブ
平成19年に佐山地区住民が立ち上げたNPO法人あい・ねっと佐山は、平成23年より公立の放課後児童クラブ(学童)の補充的な役割を担う学童クラブを開所しました。場所の確保に苦労しましたが、佐山小学校に隣接した好立地の空き民家が見つかり、同時に持ち主の兼坂健二さんも団体を支えるスタッフとして活動されるようになりました。
昨年度までは、4〜6年生の留守家庭児童の預かり保育を実施してきました。今年度からは、公立の学童が6年生まで受け入れることになったため、あい・ねっと佐山は長期休業期間のみの希望者を対象とした開所となりました。便宜的に、佐山地区に勤務する地区外在住者の子どもも受け入れています。
地域の資源・人材パワーを活用
あい・ねっと佐山の学童クラブでは、有資格者の児童指導員、地域からのボランティア協力員という立場の大人が協力して場の管理を行っており、主に佐山地区の住民で構成されています。協力員の当番等は在任エリアごとに決められ、急な交代などもその中で行うなど、地域の結びつきの良さを生かした仕組みが作られています。また、夏休みの体験活動の講師も、地域の方が得意なことを指導しています。
地域内の身近な大人がいつも見ていてくれるという安心感があり、また大人たちも近所の子どもたちの成長を近くで見守る喜びを感じられます。「困った時や悲しい時も手助けしたいと思っています」「去年より背が伸び大きくなっていて感激です」など、スタッフの方々の言葉が印象的でした。最近では大学生のボランティアも協力し、いろいろな世代で子どもたちを見守っています。

「近所のおじちゃん、おばちゃん」として子どもたちに気軽に語り、大事な地域の宝をみんなで育てていくこの仕組みが、他地域にも広がる良いと感じました。(河村)

ねだち同士のキッズクラブ
行ってみよう！地域の児童館
小学生以上は子どもだけで利用できます。祝日は3館とも休館です。詳細については、各児童館へお問い合わせ下さい。

山口市三和児童館
夏まつりやクリスマス会などの行事は、児童と高校生や大学生のボランティアが中心になって企画・進行が行われます。また、野外活動やバス遠足もあります(要申込み・参加費)。保護者同伴の方のみ、飲食可能な部屋でお弁当を食べることができます。児童のみの利用でも、持参したおやつを15時に飲食可能な部屋で食べることができます。

山口市三和町3-3
TEL 083-922-7055
開館日 月〜金 10:00〜17:00
(長期休み中は12:00〜13:00お弁当タイム)
土 13:00〜17:00
※行事により開館時間の変更もあり
利用対象者 原則として0才〜12才以下の児童(乳幼児は保護者同伴)
※10月〜年度末は耐震工事のため屋内は利用できません

山口市山口児童館
午前中は未就園児、午後は小学生を対象に工作教室や季節の行事を開催しています。また月1回、大学生のボランティアが企画した遊びも開催されています。飲食可能な部屋があるので、お弁当やおやつを持参して遊びに行くのも良いですね。

山口市秋穂コミュニティセンター
屋外の広い遊び場が、駐車場から離れた小高い場所にあるので、安全に過ごすことができます。保護者同伴の方のみ、飲食可能な部屋で持参したお弁当やおやつを食べることができます。

イベントのお誘い
10月31日(土)13:00〜 ハロウィンの集い
11月28日(土)13:00〜 「劇団演劇街」による公演
山口市秋穂東6527-2
TEL 083-984-2130
開館日 火〜日 9:00〜18:00
利用対象者 年齢は問わず(未就学児は保護者同伴)



山口市秋穂コミュニティセンター

子どもたちのための居場所づくりはもちろんです、さまざまな形で働くお母さん同士のつながりを作りたいと思います」と速水さん。この活動が地域の一つの仕組みとして、地域の資源を活かしながら広まっていこうと願っています。
※やまぐち路傍塾「山口市がさまざまな分野のボランティア講師を派遣する制度」

キッズクラブ ふあいと!
山口市男女共同参画センター賛会議室(山口市市民会館2F)
開催日 毎週水曜日15:00〜18:00
その他、学校の早帰り・午前のみの日なども必要に応じて開設
TEL 090-4836-4476(代表 速水)
メール fight.familygogo@gmail.com
★活動場所が変更になる場合があります。お気軽にお問い合わせください。



子どもたちを見守る学習ボランティアと職員

社会福祉法人 防府海北園 母子生活支援施設 沙羅の木
平成23年4月、県内初の民設民営の母子生活支援施設として開設
TEL 083-976-5577
★相談は随時受け付けています
たくさん子どもたちが幸せになれば社会はもっと明るくなる
社会がもっと明るくなればよりたくさん子どもたちが幸せになれる(海北園 故岩城元理事長の言葉)

「この活動を通して、今を生きている子どもたちを大切にしつつ、活動の第一歩は、場所の確保。その次に体制づくり。幸いにも娘さんの通う小学校区内に利用できる施設が見つかり、指導員は学童保育の経験者をお願いすることができました。現在、指導員の人件費を含め学童の運営資金は、すべて参加者で負担しています。今は参加者が少ないので個人負担が大きいのですが、今後、参加者が増えることで改善できると考えています。夏休みもさぼらなくての行事や「やまぐち路傍塾」(※)などを利用して、週3日で開催することができました。
「この活動を通して、今を生きている子どもたちを大切にしつつ、子どもたちのための居場所づくりはもちろんです、さまざまな形で働くお母さん同士のつながりを作りたいと思います」と速水さん。この活動が地域の一つの仕組みとして、地域の資源を活かしながら広まっていこうと願っています。
※やまぐち路傍塾「山口市がさまざまな分野のボランティア講師を派遣する制度」

「居場所を必要としている子どもは他にもたくさんいると思います。さまざまな問題を抱えている子どもたちも利用できる仕組みにできれば」と語る施設長の岩城さん。入居者の母親が仕事で留守の間、子どもの安心できる居場所になるように、また地域の居場所を必要とする子どもたちの居場所にもなる施設を目指しています。
沙羅の木では入居者の子どもや友だち、退所して近所に住む子どもやその友だちなども、気軽に立ち寄る姿が見られます。「居場所を必要としている子どもは他にもたくさんいると思います。さまざまな問題を抱えている子どもたちも利用できる仕組みにできれば」と語る施設長の岩城さん。入居者の母親が仕事で留守の間、子どもの安心できる居場所になるように、また地域の居場所を必要とする子どもたちの居場所にもなる施設を目指しています。

地域で子どもたちを見守る
NPO法人 あい・ねっと佐山



当番のみなさんが笑顔で子どもたちを見守ります(左端が兼坂さん)

「働くお母さん」のために立ち上がったお母さん
キッズクラブ ふあいと!



参加者を募集しています。私たちと一緒に放課後過ごしませんか?

左から2番目が代表の速水さん

子どもの安心できる「居場所」
母子生活支援施設 沙羅の木



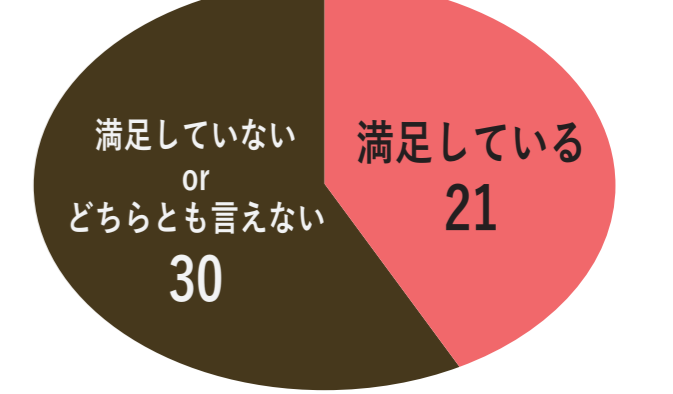
施設長の岩城さん(右)と学習ボランティアの高原さん

ええやんアンケート調査
聞かせてVoice!

放課後、何して過ごしてる?

今年度、子どもを取り巻く環境をテーマに、子どもたちの育つ環境づくり、大人の関わり方などを考えているええやん新聞では、子どもたちの今の放課後の状況についてのアンケート調査を行いました。
対象:山口市内の小学生の子どもをもつ保護者
回答数:51

Q 子どもの放課後の過ごし方に満足していますか?



「満足している」人の多くは、放課後児童クラブ(学童)を利用している人で、「学童の先生が一生懸命指導してくださっている/2年生女子」「学童で異年齢の友だちと遊ぶことができる/2年生男子」など、学童の利用が安心につながっているようです。
一方、「満足していない」人の理由はさまざまですが、目立ったのは「思いきり遊べる時間がない/1年生女子」「6時間目まである日が多く帰宅にも時間がかかるため、宿題だけで遊ぶ時間がない/4年生男子」「近所に友だちがない/1年生男子」など、「遊び足りない」「宿題ばかり」という子ども目線の回答でした。

Q 子どもに、放課後はどのように過ごしてほしいですか?

- ・宿題はきちんとやって、たっぷり遊んでほしい/3年生女子
- ・外で元気に遊んでほしい/5年生男子
- ・ゆっくり過ごす時間をあげたい/5年生女子
- ・学校ではがんばってきたんだから、家ではゴロゴロゆっくり過ごしてほしい/3年生男子

どの回答も、自分の子どもの性格などをわかったうえで親の思いが伝わるものでした。そして全体的に「元気に遊んでほしい」という、子どもらしい過ごし方を希望する意見でした。

親も子どもも満足できる放課後過ごすために、まわりの大人は何ができるでしょうか? 子どもの遊び場に必要環境として「見守る大人がいる」など安全を求める意見がとても多くありました。

子どもたちが、豊かな子ども時代を過ごすように、親・地域などが連携して、できることを見つけていきましょう!